

# 令和4年度事業報告書

公益財団法人徳川黎明会

## I. 管理部門

数年度に及んだ新型コロナウイルスの国内感染拡大により、令和4年度も、当財団は、実施事業・財務運営に多大な影響を受け、厳しい状況下の一年度となったが、本部・総務部は、引き続き、役職員、関係者、顧客の健康・安全衛生を第一に、不安定な局面を乗り越えるべく、各事業所との協力の下、さまざまな取り組みをもって、回復に努めた。幸いなことに、深刻な人的被害はなかった。

### 1. 業務執行体制

本年度は、評議員1名の退任、総務部に管理職1名の採用があり、昨年度に引き続き、各種業務の見直し改善を進めるとともに、美術館、研究所との連携、協調、協力を図り、円滑な法人事業活動を推進すべく、全般を統括した。

### 2. 寄附公募活動

本年度も、引き続き、美術館、研究所と連携し、寄附を広く募った。

### 3. 監事監査

令和4年度の業務・会計等監査について、下記のとおり執り行われた。

日時： 令和5年6月5日/13時00分から13時58分まで

場所： 当財団/本部会議室

対象： 業務、会計、理事の職務執行

### 4. 理事会・評議員会

#### (1) 理事会

##### ・ 第1回（定時/対面）

日時： 令和4年6月10日/13時00分から14時32分まで

場所： 当財団/本部会議室

議案： 第1号議案/令和3年度事業報告について

第2号議案/令和3年度収支決算について

第3号議案/任期満了に伴う役員の改選について

第4号議案/令和4年度定時評議員会開催について

第5号議案/従たる事務所の設置および登記について

第6号議案/資産運用規程の改定について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

##### ・ 第2回（臨時/書面）

日時： 令和4年6月27日

議案： 第1号議案/決議の省略について

第2号議案/代表理事・業務執行理事（常務理事）の選定について

第3号議案/決議日について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

##### ・ 第3回（定時/対面）

日時： 令和5年3月28日/13時00分から14時16分まで

場所： 当財団/本部会議室

議案： 第1号議案/令和5年度事業計画について

第2号議案/令和5年度収支予算について

第3号議案/令和5年度資金調達及び設備投資の見込みについて

第4号議案／八雲産業株式会社からの特別寄附金受け入れについて

第5号議案／相談役の選任について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

(2) 評議員会

・ 第1回（定時／対面）

日時： 令和4年6月27日／13時00分から15時05分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第1号議案／令和3年度収支決算について

第2号議案／任期満了に伴う役員の改選について

結果： 全議案について、出席評議員一同異議なく議決された。

5. 官庁申請・届出・報告

・ 内閣府関係

下記について、電子申請システム（公益 Information システム）経由にて提出・報告した。

令和4年6月 令和3年度事業報告および収支決算

令和5年3月 令和5年度事業計画および収支予算

※ その他、国ほかによる各種調査に協力した。

・ 労務関係

下記について、池袋労働基準監督署および名古屋北労働基準監督署に届出た。

令和5年3月 36 協定書

6. 役職員等の状況（令和5年3月31日現在）

(1) 役員等

評議員5名、役員7名、相談役1名、合計13名

① 評議員

職位	氏名	現職
評議員会長	田中 秀隆	(公財)三徳庵理事長
評議員	小林 喬	富国生命保険(相)特別顧問
評議員	濱本 英輔	(株)ハーフ・センチュリー・モア顧問
評議員	原 俊夫	(公財)アルカンシエール美術財団理事長
評議員	室瀬 和美	(株)目白漆芸文化財研究所顧問

② 理事

職位	氏名	現職
代表理事（会長）	徳川 義崇	徳川美術館館長・八雲産業(株)代表取締役
常務理事	深井 雅海	徳川林政史研究所所長
理事	小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
理事	徳川 斉正	(公財)徳川ミュージアム理事長
理事	前田 利祐	(公財)前田育徳会評議員

③ 監事

職位	氏名	現職
監事	降旗 京二	降旗公認会計士事務所所長
監事	松平 頼昌	(学)本郷学園理事長

④ 相談役

職位	氏名	現職
----	----	----

相談役	竹内 順一	東京藝術大学名誉教授
-----	-------	------------

(2) 職員等

区分	常勤	非常勤	計
職員	21	1	22
雇員	7	0	7
嘱託	1	4	5
臨時	0	17	17
派遣	0	0	0
合計	29	22	51

(3) 協力者等

区分	常勤	非常勤	計
参与	0	14	14
特任研究員	0	13	13
非常勤研究員	0	7	7
非常勤研究生	0	9	9
非常勤学芸員	0	2	2
合計	0	45	45

※ 統計上、雇用関係を優先し、兼務発令・委嘱等を受ける者については、主たる職位に計上している。

## II.公益目的事業

### [ 公益目的事業 1 ] 美術館の運営事業（徳川美術館）

新型コロナウイルス感染症の国内流行状況においては、年初からの第6波、第7波、さらに年末にかけて第8波の到来、感染者数の増大が報じられたが、やがてワクチンの普及・接種率の高まり、感染症分類上の位置づけの見直しなどが報じられるとともに、次第に、経済・社会全般の動きとしても、適切な感染対策を講じた上でのウイルスとの併存、諸活動の回復へと向かう傾向が見受けられた。徳川美術館では、令和4年度の実施事業として、新館展示室での名品コレクション展、本館展示室および蓬左文庫展示室における合計10本の特別展・企画展を開催した結果、直近数年度にわたって大幅な減少を辿り、低迷した入館者数（通常年度対比、令和2年度は、約70%減、同3年度は、約50%減）に緩やかな回復傾向が見受けられ、期末時点においては、当初事業計画に策定した13万人強を上回る、15万人強の結果が得られたものの、依然として、通常年度対比、約25%減という水準にあり、パンデミック発生前の実績には及ばないところで年度を終えた。このような厳しい状況下、当美術館においては、翌年度期首より、やむなく一般入館料の一部改定を実施することとした一方で、ミュージアムショップ、ネット販売等における新規商品開発、全国展開する各種販売事業者との業務提携による販路拡大など、運営財源の確保に積極的に努めた。また、3年目を迎えた文化観光拠点計画事業における文化庁関係外部コーチによる助言・支援も得ながら、展示ケースの最新化（LED調光）、館内案内表示の改善・整備、ホームページ用画像の刷新、「国宝 源氏物語絵巻」特別公開に合わせ、各種サービスを付加した「トクガワ・ナイト・ミュージアム・プレミアム」の開催など、多方面に亘る方策を講じ、多数の来館者を獲得すべく、当美術館の魅力向上、実施事業の高付加価値化や充実に努めた。なお、本年度、「国宝 初音蒔絵書棚」二基および「胡蝶蒔絵書棚」一基の修復について完了し、翌年度以降の公開を予定している。

#### 1. 美術品の展示・公開・保存・修理・収集

##### (1) 展示・公開

以下の展示・公開を行った。①～③に記載した展示による来館者数は、合計155,479名となった。

##### ① 名品コレクション展示室（新館第1～第5展示室）

「名品コレクション展」として、年度内4回の大展示替えを行ったほか、約1か月毎に部分展示替えを実施した。特別展・企画展開催期間を除く、新館展示室のみの開館日の来館者数は、合計6,919名であった。

期間1. (a.3月29日～4月26日	b.4月27日～5月22日	c.5月24日～6月19日)
期間2. (a.6月21日～7月18日	b.7月20日～8月23日	c.8月24日～9月19日)
期間3. (a.9月21日～10月16日	b.10月18日～11月15日	c.11月16日～12月15日)
期間4. (a.1月4日～1月31日	b.2月1日～2月28日	c.3月1日～3月26日)

このうち、第1展示室では、「名刀セレクション」ならびに特別展示「徳川家康」（1月4日～）、第5展示室では、「国宝 初音の調度」と題し、年度を通じて、順次数点ずつ展示公開を実施した。第2展示室では、期間4.b.において、「千利休 泪の茶杓」（2月18日～2月28日）の特別公開を行った。なお、第6展示室では、年度を通じ、「国宝 源氏物語絵巻（複製）」の展示および同絵巻の解説（動画映像を含む）を実施した。

##### ② 特別展（本館第7～第9展示室）

以下の特別展を開催した。特別展への来館者数は、合計121,629名となった。

- |                                      |                       |
|--------------------------------------|-----------------------|
| a. 4月10日～5月22日                       | 春季特別展「広重の旅風景 雨・雪そして人」 |
| 名古屋市蓬左文庫との特別展企画運営会主催、中日新聞社、日本経済新聞社共催 |                       |
| 来館者数計18,560名                         |                       |
| b. 5月28日～7月18日                       | 特別展「名刀正宗と相模伝」         |
| 読売新聞社共催                              |                       |

来館者数計 18,873 名

- c. 7月24日～9月11日 特別展「お宝のうら！なか！そこ！」  
読売新聞社共催

来館者数計 16,014 名

- d. 9月17日～11月6日 秋季特別展「名物ー由緒正しき宝物ー」  
名古屋市蓬左文庫との特別展企画運営会主催、中日新聞社、日本経済新聞社共催

来館者数計 32,645 名

- e. 2月4日～4月2日 特別展「尾張徳川家の雛まつり」  
中日新聞社共催

来館者数計 35,537 名（3月31日まで）、37,905 名（4月2日まで）

③ 企画展（名古屋市蓬左文庫展示室）

名古屋市との協力の下、以下の企画展を開催した。企画展のみ開催時 e・f の来館者数は、合計 26,931 名であった。a・b・c・d・g の各展覧会は、上記 1.(1)②a・b・c・d・e と同じ、または同時開催であるため、来館者数は同一である。

- a. 4月10日～5月22日 春季特別展「広重の旅風景 雨・雪そして人」

上記 1.(1)②a と同企画

- b. 5月28日～7月18日 企画展「大名の冠・婚・葬・祭」

上記 1.(1)②b と同時開催

- c. 7月24日～9月11日 企画展「祭りの世界ー風流と仮装ー」

上記 1.(1)②c と同時開催

- d. 9月17日～11月6日 秋季特別展「名物ー由緒正しき宝物ー」

上記 1.(1)②d と同企画

- e. 11月12日～12月15日 企画展「鷹狩」

来館者数計 17,936 名

- f. 1月4日～1月29日 企画展「徳川文房博」

毎日新聞社共催

来館者数計 8,995 名

- g. 2月4日～4月2日 企画展「読み解き 近世の書状」

上記 1.(1)②e と同時開催

④ 特別公開（新館第2、第5展示室）

下記の特別公開を実施した。

11月19日～11月27日 「国宝 源氏物語絵巻 蓬生・柏木（二）」

2月18日～2月28日 「千利休 泪の茶杓」

⑤ 特別観覧

- a. 研究者等特別観覧

大学等学術・研究機関、外部美術館等からの要請に応じ、特別観覧を実施した（全24件）。

- b. 徳川茶会（茶室餘芳軒および山の茶屋）

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を施し、通常期より人数を大幅に制限して、3年ぶりに6日間（10月9,10,15,16,22,23日）開催し、合計723名が参加した。

- c. 夜間開館（トクガワ・ナイト・ミュージアムの実施）

観覧人数を制限し、趣向を凝らした夜間の特別開館を、5日間（4月30日、7月9日、10月1,2日、11月19日）、特別料金にて実施した。

⑥ 他館主催展覧会への収蔵品出陳

東京国立博物館・九州国立博物館「琉球」（5月3日～6月26日、7月16日～9月4日）、五島美術館「西行ー語り継がれる漂泊の歌詠み」（10月22日～12月4日）、京都国立博物館「京に生きる文

化 茶の湯」(10月8日～12月4日)など、他館主催の展覧会に対し、延べ19館、延べ90件の収蔵品(うち、寄託品1件、複製品1件)を出陳した。

⑦ 他館との共同展示企画

「大蒔絵展」展示作業(MOA美術館・三井記念美術館・朝日新聞社)

(2) 修理・保存・収集

① 保存・収集

以下の普通美術品を受贈した(計8件)。

・ 「論語」の語「富与貴是人之所欲也」	徳川 義直 筆	一幅
・ 色紙「終始一誠意」	徳川 義親 筆	一枚
・ 扇面「心如水」	徳川 義親 筆	一枚
・ 布袋に唐子図	松平 勝長 筆	一幅
・ 葵唐草文染付食器(和食器・洋食器)	加藤 五助 作	一式
・ 七言二句「誰言春色」	徳川 家綱(第四代将軍) 筆	一幅
・ 松桜蒔絵香炉		一口
・ 若松梅蒔絵小棗		一合

② 修理

以下の修理を実施した。修理に伴う自己負担分費用については、活動支援基金を充当した。

a. 基本美術品(計1件)

「国宝 婚礼調度類(徳川光友夫人千代姫所用)」「(初音の調度)」

初音蒔絵書棚(棚囲い・龍膽七宝繫) 一基

初音蒔絵書棚(棚囲い・七宝繫) 一基

胡蝶蒔絵書棚 一基

国宝重要文化財等保存・活用事業費(国庫補助美術工芸品保存修理事業)および文化財保存事業費(愛知県文化財保存事業)ならびに(公財)住友財団文化財維持・修復事業による助成を受け、修理した。

b. 普通美術品(計1件)

白・納戸細格子と茶・花色・黄・赤・白横縞腰替熨斗目 一領

(公財)三菱財団文化財修復事業助成を受け、修理した。

(3) 収蔵品撮影(館内)

各展覧会のための広報用および図録作成に必要な撮影を行った(合計206カット)。

2. 調査・研究

(1) 美術館における調査・研究

学芸部において、以下の研究を行った(括弧内は、開始年度)。

- ①館蔵品悉皆調査(昭和63年度)、②尾張徳川家御道具帳のデータベース化(平成27年度)、③尾張徳川家関係寺社蔵品調査(昭和58年度)、④尾張徳川家に関連する政秀寺所蔵什宝の調査(平成20年度)、⑤幕末明治浮世絵の研究(令和2年度)、⑥尾張藩御用絵師の研究(令和2年度)、⑦大名家における絵師の絵画活動についての研究(平成6年度)、⑧尾張における画家の活動についての研究—田中訥言を中心に—(平成11年度)、⑨武家女性の生活史の研究(平成29年度)、⑩尾張徳川家旧蔵の古典籍および文書についての研究(平成8年度)、⑪渡来織物の調査研究(平成29年度)、⑫近世狩野派の研究(平成24年度)、⑬戦国合戦図の総合的研究(平成28年度)\*、⑭戦国軍記・合戦図の史料学的研究(令和2年度)\*、⑮江戸初期絵画の研究(平成24年度)、⑯茶道史の研究(令和2年度)、⑰尾張徳川家の仏教絵画の研究(令和2年度)、⑱刀剣に関する研究(令和4年度)、⑲高雄曼茶羅の復元と空海の造形観の研究(平成30年度)\*、⑳尾張徳川家に関する古典籍および古文書の研究(令和3年度)、㉑刀装具の研究(令和4年度)\*、㉒岩佐派の研究(令和4年度)

- ※ ⑬は、東京大学史料編纂所特定共同研究、⑭は、共立女子大学共同研究（文部科学省科学研究費助成事業）、⑰は、京都国立博物館共同研究（文部科学省科学研究費助成事業）、⑳は、メトロポリタン東洋美術研究センターの助成の下で実施した。
- (2) 徳川林政史研究所との連携による研究（前年度より継続）  
以下、各号の研究を引き続き行った。
- ① 尾張徳川家歴代藩主に関する史料調査・研究
  - ② 尾張徳川家関連史料に関する基礎調査・研究
  - ③ その他、展示・教育普及事業への協力および研究交流の促進
- (3) 収蔵品データベースの整備（前年度より継続）  
以下、各項の業務を引き続き実施した。
- ・ 調書作成・入力
  - ・ 写真データ作成・入力
  - ・ 展示作品リスト・キャプション用データ整備・入力
  - ・ リスト・キャプションの作成
  - ・ 作品の写真撮影
  - ・ 作品情報のデータベース化等
- (4) 研究用図書類の整備
- ① 図書（購入、計 33 冊、受贈、計 2,018 冊）  
『源氏絵集成』（藝華書院）、『古代中世絵絹集成』（中央公論美術出版）、『継平押形』などの他、『史料纂集 古記録編』（八木書店）、『大日本史料』（東京大学出版会）ほかの書籍を購入し、『尾張徳川家菩提寺 浄土宗建中寺史料集』（文化書院）、『合戦図 描かれた〈武〉』（勉誠出版）、『茶の湯の茶碗』（淡交社）ほかの書籍を受贈した。
  - ② 雑誌（購入、計 115 冊、受贈、多数）  
『國華』（國華編集委員会編／國華社）、『史学雑誌』（史学会）、『仏教芸術』（中央公論美術出版）などの定期購読のほか雑誌を購入し、『茶道の研究』（大日本茶道学会／三徳庵）、『美術研究』（東京文化財研究所）、『MUSEUM』（東京国立博物館）、『茶の湯文化学』（茶の湯文化学会）ほかの雑誌を受贈した。
- (5) 研究成果の公開・公刊  
以下の通り、研究成果を公開・公刊した。
- ① 定期研究発表会
    - 2月19日（第80回） 「殿様の自筆書画 徳川慶勝「御書被下留」を中心に」  
吉川 美穂（学芸部部長代理）
    - 3月26日（第81回） 「新出の龍巖徳真墨蹟をめぐる尾形乾山像の再考」  
加藤 祥平（学芸部マネージャー）
  - ② 図録、『研究紀要』等
    - a. 特別展図録の作成・頒布  
春季特別展「広重の旅風景」において、図録を頒布した。  
秋季特別展「名物ー由緒正しき宝物ー」において、図録を作成・頒布した。
    - b. 英文リーフレットの作成  
展覧会を紹介する英文リーフレットを作成・配布した。
    - c. 『金鯪叢書』第50輯（『研究紀要』第57号）の編集・刊行
  - ③ 美術館だよりの編集・発行（年度内4回）  
4、7、9、1月に『葵』第122～125号を編集・発行した。
- (6) 大名道具収蔵館研究会（平成4年度より継続）  
12月12日、事前アンケート調査結果を基に、オンラインで開催された。

### 3. 教育・普及

以下の諸事業を実施した。

#### (1) 特別展記念講演会・記念講座

- 4月10日 「広重の名所絵のつくられかた」 大久保 純一 氏 (国際浮世絵学会理事長)  
10月1日 「問い直す名物刀剣のイメージ」 酒井 元樹 氏 (東京国立博物館主任研究員)

#### (2) 土曜講座「大名の生活と文化」

※ 各講座の講師は、当館学芸員等

- 4月24日 「北斎か広重か」  
5月21日 「広重の画業と風景画」  
6月4日 「尾張徳川家の正宗・貞宗」  
6月11日 「尾張徳川家の殿様になる」  
8月20日 「仮装天国―祭りの世界―」  
9月3日 「大名道具のウラ側」  
10月29日 「名物とは何か？」  
11月26日 「史料からひもとく尾張徳川家 その2 ―鷹狩の世界―」  
1月7日 「文房清玩―尾張徳川家に伝来した唐墨を中心に―」  
3月4日 「なぜ、尾張徳川家は現在(いま)に美術品を伝えることに成功したのか」

#### (3) 徳川林政史研究所による古文書入門講座「江戸時代の古文書を読む」

※ 各講座の講師は、徳川林政史研究所研究員等

- 6月18日 「江戸城御城坊主日記に見る桜田門外の変」  
6月25日 「古文書に見る安政期の地震災害」  
7月2日 「黒船来航と 変貌する天下の名園・戸山荘」  
7月9日 「ペリー来航期の落首・世相―徳川慶勝が聞いた庶民の“声”(1)」  
7月16日 「徳川幕府外交印裏事情―印章製作から見える動乱のきざし」  
7月30日 「ペリー来航期の落首・世相―徳川慶勝が聞いた庶民の“声”(2)」

#### (4) 徳川林政史研究所による江戸学講座「徳川光友とその時代 ―17世紀の幕政・藩政・林政―」

※ 各講座の講師は、徳川林政史研究所研究員等

- 12月3日 「元禄時代と幕政の転換」  
1月21日 「徳川光友の治世と幕府―二代当主を支えた家老たち―」  
1月28日 「木曾山支配の変遷と寛文の林政改革」  
2月4日 「尾張家分家の創出と展開」

#### (5) 担当学芸員の見どころガイド

新型コロナウイルス感染予防の観点から、従来の「ギャラリートーク」に代え、対策を講じた上で、講堂における短時間の「見どころガイド」として実施した。春季特別展「広重の旅風景 雨・雪そして人」、特別展「名刀正宗と相模伝」、夏季特別展「お宝のうら!なか!そこ!」、企画展「大名の冠・婚・葬・祭」、「祭りの世界―風流と仮装―」、「鷹狩」、「徳川文房博」において、各担当学芸員が、合計7回実施した。

#### (6) 特別展・企画展関連企画

##### ① 企画展「祭りの世界―風流と仮装―」関連 VRで楽しむ豊国祭礼図屏風

7月24日～9月11日 特別協力：凸版印刷株式会社、立正大学

※ 会期中、タブレット端末を貸し出し、VRによる作品体験機会を提供

##### ② 新春企画

1月8日 「徳川美術館で書き初め」 川崎 尚麗 氏 (毎日書道展審査会員)

##### ③ 企画展「徳川文房博」関連

1月22日 「筆から楽しむ書」 加藤 裕 氏 (毎日書道会評議員)

④ 特別展「尾張徳川家の雛まつり」関連

2月18日、26日 「香りを楽しむ聞香—梅烟香—」

(7) 土曜子ども教室の開催 (小中学生向け教育・普及、小中高生の観覧料は無料)

4月2日～3月25日の間、毎週土曜日 (45日間)、1日3回、各約60分、小学校・中学校の児童および生徒を対象に実施した。ボランティアがサポートしながら、展示室での解説はせず、参加者にワークシートを配布、新型コロナウイルス感染予防策を講じながら、体験型のワークショップを実施。参加者延べ967名 (子ども553名、大人414名)

(8) 夏休み子ども特別企画「お宝のうら！なか！そこ！」(7月24日～8月31日)

ガイドブック・シールを作成し、館内で無料配布、クイズを実施した (配布部数1,319部)

(9) 「名刀シールラリー」(令和4年3月29日～3月26日)、「家康シールラリー」(1月4日～)

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、従来のスタンプラリーに代え、シールラリーとして実施。「名刀シールラリー」は、延べ参加者数4,365名、7回以上参加者数289名、全回参加者数143名。

(10) 中高生・大学生の職場体験の受け入れ (インターンシップ)

8月19・20日 (2日間) 安城高校 (1名)

1月25・26日 (2日間) 駒形中学校 (2名)

(11) 体験プログラム

- ・ 貝合わせ (団体受入・デコパージュ)

7月27日、10月7,25日、1月17,24日、2月2,26日、3月11日

8団体、計125名参加

- ・ 聞香 (団体受入)

6月5日、7月29日、10月13日、11月12日、12月4日、1月24日、2月2,5,9日

9団体、計121名参加

- ・ 練香体験講座 (個人)

9月23日、10月14日、11月12日、1月15日

計128名参加

(12) 小学校・中学校・高校・大学の生徒・学生向け体験を含めた来館プログラム

体験学習 (模造刀に触れる体験後、館内を見学) に、小学校1校 (29名)、中学校1校 (11名)、高校2校 (124名)、大学3校 (参加者計35名)、校外学習 (美術館紹介と作品解説) に、中学校4校 (参加者計37名)、大学4校 (参加者計254名)、幼稚園1園 (21名) およびオンライン授業に高校1校 (参加者計180名) の参加を得て、各々実施した。

(13) 古美術相談会

随時、作品持込・写真郵送等による相談を行い、計13件実施した。

(14) ボランティア研修

4月9日、5月27日、6月21日、9月27日、11月11日、1月4日、3月28日、企画展および名品コレクション展の解説、質疑応答を行った。解説員には、企画展および名品コレクション展示室のすべての解説を配布した。夏休み子ども特別企画のガイドブック配布を8月参加者に配布した。4月28日、5月17日、8月31日、10月19日、12月13日、2月14日、3月14日に、ボランティアを対象とする土曜子ども教室の研修を実施した。

(15) 館長講演活動

4月8日、第138回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 (文化講演) において講演した。

(16) 出講・受嘱

① 出講

学芸員計6名が、合計7の大学、合計2の文化センターほか外部機関の講座等に出講した。

② 受嘱

学芸部員計3名が、愛知県内の市・研究機関等、合計7件の専門委員、研究員、研修員等の委嘱を受け、必要業務を遂行した。また、外部機関からの依頼にもとづき、随時職員を派遣した。

#### 4. 協賛事業・事業協力・補助金事業

##### (1) 協賛事業・事業協力

- ① 「第101回名古屋市文化史教室 夏休み子ども企画」を、名古屋市と共催した。
- ② 愛知県内の博物館・資料館などを巡る「ひなまつりスタンプラリー」(2月4日～3月5日)に参加

##### (2) 補助金事業

- ① 文化庁令和4年度文化芸術振興費補助金(博物館等を中核とした文化クラスター推進事業)  
令和2年度に認定を受けた「文化観光拠点施設」として、本年度は、以下の項目の実施についての助成を得た。また、6月より2月まで、文化庁より、文化観光拠点としてのコーチングを受けた。
  - ・ 第1・2展示室間接照明LED化
  - ・ 移動式展示ケースの更新
  - ・ 所蔵品および展示室・外観の写真撮影
- ② 文化庁令和3年度第2次補正予算事業 ARTS for the future! (コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)  
企画展「鷹狩」および特別公開「国宝 源氏物語絵巻」開催時の「トクガワ・ナイト・ミュージアム・プレミアム」に助成を得た。
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策・旅行商品造成支援事業  
名古屋観光コンベンションビューローの助成を受け、「本格歴史体験講座 復活・徳川家康香りのレシピ」ならびに「練香体験キット」の製造販売を実施した。
- ④ 観光再開・拡大に向けた文化観光コンテンツの充実事業  
通常の夜間開館をベースに、コーチングを受けた高付加価値版「トクガワ・ナイト・ミュージアム・プレミアム」(11月19日)を実施。58名の参加があった。

#### 5. 賛助会・友の会・大学メンバーシップ

##### (1) 賛助会会員向け優待

以下の各項の優待を引き続き行った。1年間の無料入館、企画展・特別展内覧会を開催、各企画展・特別展の開始日前日に賛助会員内覧会の開催(図録がある場合は無料配布)、美術館だより『葵』および各種印刷物の配布、ショップ商品等の割引、他館との連携による各々の会員向け相互観覧料割引(五島美術館ほか4館)

本年度の会員数推移は、以下のとおりであった。

種別	前期末	今期入会	今期退会	今期末	前期対比
個人	95	16	15	96	1
家族	12	1	1	12	0
法人	43	3	0	46	3
合計	150	20	16	154	4

##### (2) 友の会会員向け優待

以下の各項の優待を引き続き行った。美術館だより『葵』および各種印刷物の配布、一般会員向け1年間の無料入館制度(ただし、名古屋市蓬左文庫との共催展の観覧は1回目のみ無料・2回目以降は割引料金(団体料金)を適用)、一般会員向けのミュージアムショップでの割引、他館との連携による各々の会員向け相互観覧料割引(前掲(1)と同じ)。

本年度の会員数推移は、以下のとおりであった。

種別	前期末	今期入会	今期退会	今期末	前期対比
----	-----	------	------	-----	------

一般	455	137	113	479	24
情報	9	8	3	14	5
合計	464	145	116	493	29

※ 一般会員のうち、28名が半期入会（4,400円）の会員

(3) 大学メンバーシップ会員向け優待

対象大学の学生と教職員の無料入館（一部学生のための例外校あり）および対象大学への展覧会ポスター・ちらし、イベント案内等の配布・掲示依頼を行った。会員登録校は以下のとおりであり、現在25の学校法人等、関連施設を含めて34施設である（本年度、名古屋造形大学と愛知大学が新たに加入）。

愛知学院大学、愛知学院大学短期大学部、愛知学院大学歯科技工専門学校、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、桜花学園大学、名古屋短期大学、金城学院大学※、椋山女学園大学※、中京大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋外国語大学、菱野幼稚園、名古屋ファッション専門学校、名古屋栄養専門学校、名古屋製菓専門学校、名古屋芸術大学、名古屋経済大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋造形大学※、名古屋大学、名古屋文化短期大学、名古屋ファッションビューティー専門学校、南山大学、名城大学※、愛知教育大学、愛知大学

※ 学生のみを対象とした会員

6. 管理

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

全館的な感染症予防として、引き続き、以下、各項の対策を実施した。

- ・ 感染症予防対策マニュアルの策定とホームページ掲載
- ・ 各所予防対策を促すサイネージ、パネル等の設置
- ・ 来館者玄関、従業員通用口における非接触型体温計の設置
- ・ 館内各所における消毒液の設置
- ・ 展示室、講堂等出入口扉の常時開放（作品保全・防犯上可能な個所）
- ・ 空調・換気の適切な管理
- ・ 券売所、ミュージアムショップ、事務室等へのアクリル板の設置
- ・ 展示室・講堂への入場者数制御および人的誘導
- ・ 来館者が手をふれる設備・備品等の定期消毒
- ・ 展示室およびロビーにおける対面による展示解説の中止
- ・ ビデオルームの閉鎖
- ・ その他、従業員の健康管理の徹底等

(2) 観覧料金

オンラインチケットの活用。通常前売り券に加え、夜間開館（トクガワ・ナイト・ミュージアム）等、美術館主催イベントも同様に、オンラインチケットで販売し、参加希望者の利便性向上と事務（販売管理・顧客管理等）の効率化を図った。

(3) 広報

① 本年度のメディアによる取材は、以下のとおりであった。

展覧会等	新聞	テレビ・ラジオ	雑誌・WEB等
広重の旅風景	14	0	8
名刀正宗と相模伝	46	1	11
大名の冠・婚・葬・祭	0	0	2
お宝のうら！なか！そこ！	20	1	13
祭りの世界－風流と仮装－	0	0	1

名物ー由緒正しき宝物ー	18	3	20
「国宝 源氏物語絵巻」特別公開	0	0	7
鷹狩	5	0	14
徳川文房博	0	0	6
尾張徳川家の雛まつり	2	4	17
読み解き近世の書状	0	1	1
その他	5	14	28
合計	110	24	128

② 有料広告として、以下の掲示・掲載を行った。

キラッ都ナゴヤ（毎月）、名古屋アートニュース（隔月）、大曽根駅南口看板（常設）、大曽根駅北口看板（常設）、電柱看板（常設）、名古屋コンシェルジュバナー広告、リスティング広告、「どうする家康」公式ガイドブック

③ ホームページ、Facebook、Twitter、YouTube、Instagram など、SNS の積極的な運用

④ 丸井グループと連携した、バーチャルミュージアムの運用

#### (4) 営業

① 団体利用促進のため、以下を行った。

- ・ 旅行会社への営業活動（ZOOM 商談会 2 回、KNT 商談会 1 回、東京営業セールス 2 回、計 5 回）
- ・ MICE 誘客の働きかけ
- ・ 名古屋観光コンベンションビューローとの連携
- ・ 大学メンバーシップのルートを使用した展覧会情報の提供（ポスター・チラシ配布）

② 個人来館者利用促進のため、以下を行った。

- ・ 旅行会社への広報宣伝協力要請  
各旅行会社が主催する個人旅行向けパンフレットへの情報掲載（JTB、近畿日本ツーリスト、JR 東海ツアーズ）
- ・ 旅行会社オリジナル商品の開発「JREX 会員限定 練香体験講座」（2 月に 2 回、3 月に 3 回開催、計 116 名参加、「三重交通タクシープラン（具合わせ）」（1 月に 6 回開催、計 21 名参加）
- ・ 前売券の販売促進  
百貨店友の会 3 店舗（高島屋・名鉄・大丸松坂屋）における販売
- ・ YouTube「徳川美術館チャンネル」の配信（展覧会見どころ紹介動画、計 8 本）
- ・ 各種スタンプラリーの実施（外部団体と連携したものを含む）  
「名刀シールラリー」、「家康シールラリー」（前掲 3.(9)）、「ひなまつりスタンプラリー」（前掲 4.(1) ②）等
- ・ 個人向け練香体験講座（大河ドラマを意識し、仕掛けたイベントとして）（前掲 3.(11)）

③ 閉館後・休館日等における時間外の利用誘致

トクガワ・ナイト・ミュージアム（前掲 1.(1)⑤c.）、団体向け夜間貸切を実施した（全 6 回）。

#### (5) ボランティアの会

① 会員数推移は、以下のとおりであった。

	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
会員数	293	280	221	229

② 活動内容

ボランティアによる展示室内見守り活動を行った。また、感染状況の鎮静化に合わせて一部解説を再開した（4 月 19 日～4 月 28 日、5 月 10 日～5 月 27 日のうち、平日のみ概要解説）。なお、不特定多数者との接触や会話が避けられない受付業務については、引き続き、活動を休止した。

③ 新規ボランティアの採用

コロナ禍により、退会したボランティアが多く、業務維持が困難となったため、新規ボランティアの採用を行った。面接（11月3日～5日）と研修（1月9,29日、3月6日）を実施し、第12期生22名を採用した。

(6) 徳川美術館運営懇話会

9月21日、第29回目として、当館にて開催した。出席した委員は、水野 明久 氏（新座長、(一社)中部経済連合会会長）、大村 秀章 氏（愛知県知事）、河村 たかし 氏（名古屋市長）、山本 亜土 氏（名古屋商工会議所会頭）、徳川 義崇（(公財)徳川黎明会代表理事・徳川美術館館長）の計5名。小笠原 剛 氏（(株)三菱UFJ銀行顧問）、林 欣吾 氏（新任、中部電力(株)代表取締役社長）、三矢 誠 氏（トヨタ自動車(株)アドバイザー）の各委員は、欠席のため、本会資料を送付した。

(7) 徳川園各施設連絡調整会議

徳川美術館、徳川園、名古屋市蓬左文庫、宝善亭、ガーデンレストラン徳川園で構成する、徳川園各施設による月次定例会議を開催した。また、1月19日、各施設の本部からの参加を得て、全体会議を開催した。

(8) 地域との連携

前掲4.(1)①②に記載のとおり。

(9) 施設・設備の保守点検・営繕

北蔵収蔵庫扉の鍵改修工事、サーバールーム内の基幹スイッチ交換工事、ビル用マルチエアコン室外機保全工事、自動制御機器更新工事、エアハンドリングユニット整備工事、下水管洗浄工事、消防設備点検不備改修工事、梱包室の大規模整理を実施した。

(10) 国庫補助金による事業

前掲1.(2)②および4.(2)に記載のとおり。

(11) 民間助成金による事業

前掲1.(2)②に記載のとおり。

(12) 活動支援基金による事業

① 寄附金受付業務

前年度に引き続き、当美術館の実施事業を対象とした募金活動を行った。本年度の実績として、13,845,541円（法人5件630,000円、個人70件12,712,000円、募金箱272,957円、お雛さまの赤い糸募金230,584円）の寄附金を受領した。

② 感謝状の贈呈

高額寄附者（個人30口以上、法人10口以上）個人1名に対して、感謝状を贈呈した。

## [ 公益目的事業 2 ] 研究所の調査・研究・教育・普及事業（徳川林政史研究所）

令和4年度、徳川林政史研究所では、当研究所開設100周年を迎える翌年度に向け、徳川美術館学芸員と連携して、開催予定の特別展・企画展の準備を進めた。依然として、新型コロナウイルスの国内流行に終息を見ないところ、通常業務においては、人数を厳選し、感染予防を徹底した上で、史料調査のための出張を再開した。一方、多数の参加が見込まれる、夏季・春季の研究集会は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催した。また、非常勤研究員・研究生による集中史料整理も、所内での作業とはせず、在宅での整理・採録作業として実施するなど、社会状況を考慮した上で、現実に応じた形で事業を遂行してきた。尾張藩関係の成果としては、非常勤研究員・研究生の協力の下、尾張徳川家から将軍家に献上する産物などを四季毎にまとめた『礼物軌式』（旧蓬左 148-59）刊行の準備を進め、出版社に原稿を提出した（翌年度、一般書店から刊行予定）。林政史関係においては、引き続き、『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化』を2冊刊行するとともに、尾張藩御山守の史料集『明和二年 御山方御用并諸事日記』を翻刻・刊行し、着実に成果をあげている。若手研究者の育成に関しては、昨年度に引き続き、在宅作業・業務を継続し、若手研究者に古文書解読やデータ入力を依頼し、所員が解読指導に当たった。ここでの翻刻史料は、今後の史料集刊行や、研究・公開活動に活用していく予定である。なお、当研究所の事業実施に対して、300,000円の活動支援基金が寄せられ、これを史料購入や補修に充当した。

### 1. 調査・研究

#### (1) 研究所における調査・研究（括弧内は、開始年度）。

①名古屋城の構造と儀礼に関する研究（平成27年度）、②尾張藩幕末維新史の研究（平成24年度）、③近世の地域社会と森林利用に関する研究（令和4年度）、④近世山村の生活文化に関する研究（令和4年度）、⑤尾張徳川家とその家臣団の江戸屋敷に関する研究（令和3年度）、⑥近世木曾山林業地域における材木商の存在形態（令和4年度）、⑦江戸周辺地域における尾州鷹場の研究－鷹場領主論の視点から－（令和4年度）

#### (2) 徳川美術館との連携

歴代当主の事蹟や年譜、尾張藩政に関する情報を共有し、展覧会事業においても、徳川美術館学芸員と密接に連絡を取り合った。また、対面とオンラインを併用した所内研究会に美術館学芸員の参加を促して交流をはかるとともに、相互に意見交換するなど、研究を深化させるべく努めた。

① 古文書講座・江戸学講座への講師の派遣

② その他協力・研究交流の促進

#### (3) 研究成果の公開・公刊

① 研究会の開催（当研究所にて（対面・オンライン併用））

・ 8月5日

大道米搗の成立と御用人足

名古屋町方における家屋敷所有と女性

長州藩における「海防臆測」の受容と展開

徳川林政史研究所の開設と戦前期の活動（講和）

・ 10月14日

伊勢における尾張藩鷹場と開発一からの鷹場領主形成一

・ 11月30日

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 7 子どもから大人へー江戸時代の“かしも生活” ③ー』構想研究発表会

・ 12月9日

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 6 自然の脅威と樹木の活用』構想研究発表会

3月3日

所蔵史料紹介、「紀州文書」について

所蔵史料紹介、「妙心寺文書」について

鳥取藩江戸定詰に関する一考察

江戸における大型祭礼の構造と類型

② 『金鯨叢書』第50輯（『研究紀要』第57号）の公刊

家宣・家継時代の江戸城本丸御殿図再論

尾張藩領木曾川域における地場材木商の盛衰－犬山屋神戸家の場合－

尾張藩の鷹場と開発－伊勢国廣瀬野を事例に－

尾張領内御殿の存亡と機能（下）

尾張徳川家江戸屋敷と家臣〈外宅〉

侯爵徳川義親と徳川林政史研究所－大正・昭和期の「徳川林政史研究室」時代を中心に－

〔研究ノート〕 碁盤の製作と御山守内木家

〔活動報告〕 令和四年度の調査・研究・普及活動

〔所蔵史料目録〕 徳川林政史研究所所蔵 石河家文書目録（十五）

徳川林政史研究所所蔵 続徳川林政史研究所収集絵図（続林絵図）目録（一）

『金鯨叢書』第49輯（『研究紀要』第56号）寄贈・送付業務

印刷部数 550 冊（うち、寄贈・交換 475 冊）

③ 所蔵史料の編集・刊行

『史料纂集 礼物軌式』（八木書店）の編集

④ 史料調査の成果公開（ブックレット、史料集の刊行）

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 6 自然の脅威と樹木の活用』の編集・刊行

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 7 子どもから大人へ－江戸時代の“かしも生活”

③－』の編集・刊行

『内木家文書 明和二年「御山方御用并諸事日記」』の編集・刊行

(4) 「尾張徳川史」編纂準備

① 「儀物軌式」（旧蓬左 148-60）全 8 冊、史料集原稿化準備（完了）

② 「事蹟録」（旧蓬左 143-6）全 128 冊、史料集原稿化準備（完了）

③ 「事蹟録」（旧蓬左 143-6）全 128 冊、データベース作成（1～20 冊完了）

(5) 尾張徳川家関連資料の調査・研究

古写真の研究・保全に資するため、アルバム所収古写真のデジタルデータ化を実施した。

(6) 史料調査

① 林政史アーカイブズ調査

a. 岐阜県中津川市加子母地域史料調査

6月3日～6日、9月30日～10月3日、3月10日～13日

b. 金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵史料調査

9月13日～15日

c. 木曾古文書館所蔵史料調査

11月16日～18日

② 研究資料（複写・写真撮影資料を含む）の調査・収集

a. 犬山城白帝文庫所蔵史料調査

5月29日～31日、12月3日～5日

b. 名古屋市蓬左文庫所蔵史料調査

11月3日～5日

③ 収集史料データの整理および公開

なし

④ 林政・林業関係史料データベースの構築・公開

全国の他機関所蔵林政・林業関係史料情報について、下記機関の所蔵史料データベースを作成・公開した。また、各所蔵機関の協力を得ながら、出典として、各所蔵機関の目録データのリンク付けも実施した。

- ・ 青森県

青森県史デジタルアーカイブシステム（約 1,450 点）、青森県立図書館（約 180 点）、弘前市立図書館（約 160 点）、弘前市立博物館（約 15 点）、八戸市博物館（約 40 点）

- ・ 岐阜県

岐阜県歴史資料館（約 1,910 点）

(7) 調査・研究における他機関との連携・協力

① 名古屋市蓬左文庫

当研究所所蔵史料の一部を、紙焼きおよびデジタルデータで提供し、名古屋市蓬左文庫での閲覧利用に協力した。

② 犬山城白帝文庫

犬山城白帝文庫と研究協力に関する覚書を取り交わし、調査・研究にあたった。

③ (公財) 徳川記念財団

当研究所では、受託史料として、徳川宗家(旧将軍家)に伝来した史料、約 5,130 点を保管している。(公財) 徳川記念財団が、調査・展示等で当該史料を利用する際は、史料出納をはじめ、調査への助言、閲覧室・写真撮影場所の提供、貸し出しの立ち会い等の協力を行っている。本年度は、8月8日に、同財団職員による写真撮影に立ち会った。なお、本年度、同財団は、展示事業を中止しているため、史料移動業務はなかった。その他、毎月1回、同財団職員等による書庫内作業に協力した。

④ 愛知県公文書館

愛知県史編さん委員会が、県史編さんのために収集した、林政史研究所所蔵史料の紙焼き(データ点数 11,356 点)を公開し、愛知県公文書館での閲覧利用に協力した。

2. 史料・図書 of 整理

(1) 所蔵史料 of 整理

① 旧名古屋税務監督局所蔵史料 of 整理・目録作成

総数 3,313 件の番号確定作業が完了した。

② 信濃国木曾史料 of 整理・目録作成

総数約 2,260 件の目録が完了した。

③ 当研究所収集史料 of 整理・目録作成

総数約 6,400 件のうち計 580 件の目録を作成した。

④ 三河国妙心寺文書 of 整理・目録作成

総数 83 件の目録が完了した。

⑤ 紀州文書 of 整理・目録作成

総数 109 件の目録が完了した。

(2) 所蔵史料 of 目録刊行

① 石河家文書目録(十五)を『金鯪叢書』第 50 輯(『研究紀要』第 57 号)に収録、刊行した。

② 徳川林政史研究所所蔵 続徳川林政史研究所収集絵図(続林絵図)目録(一)を『金鯪叢書』第 50 輯(『研究紀要』第 57 号)に収録、刊行した。

(3) 所蔵史料データベース of 構築および保存

① 所蔵史料データベース of 構築

- ・ 三河国額田郡小呂村文書 of データベース化

総数 58 件のうち、1~57 件のデータを入力した。

- ・ 三河国妙心寺文書 of データベース化

総数 83 件のデータを入力し、作業が完了した。

- ・ 紀州文書のデータベース化

総数 109 件のデータを入力し、作業が完了した。

- ② 目録データベースの検索・活用方法ならびに公開体制（ホームページでの検索システム構築）の検討  
石河家文書のデータ入力分を史料検索システムに追加搭載した。

#### (4) 史料のデジタルデータ化

- ① 所蔵古写真（アルバム所収分）のデジタルデータ化（237 点、237 カット）

- ② 所蔵史料のデジタルデータ化

- ・ 外部委託

デジタル撮影「(江戸城) 御本丸御白書院御札之図」ほか、56 点、324 カット  
マイクロ撮影およびスキャニング「良由公日記」ほか、2,855 コマ

- ・ 自館でのデジタルデータ化（デジタルマイクロリーダープリンター導入による）  
旧蓬左「尾陽産物志」「御家中由緒書」、林「千村氏雑録」ほか、14,850 コマ

- ③ 調査収集史料写真のデジタルデータ化

犬山城白帝文庫所蔵史料（デジタルデータ 15,396 コマ）

名古屋市蓬左文庫所蔵史料（デジタルデータ 16 コマ）

金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵史料調査（デジタルデータ 2,829 コマ）

#### (5) 史料の購入・補修（活動支援基金充当）

- ① 購入

献上物礼法 1 冊

諸物進贈法 1 冊

帳中謄録校書 1 冊

- ② 補修

林 6392「徳川家康書状 北条氏直宛」

#### (6) 書庫内の整理ほか保存環境の保全

#### (7) 研究用図書 of 整理

- ① 図書整理

昨年度に引き続き、図書・雑誌のコンピューター入力を進め、新着図書 450 冊に対し、ラベル貼付ならびに入力作業を行った。

- ② 図書の購入・受贈

図書は、『八百津町史』等 53 冊を購入。その他、寄贈された図書 397 冊。

雑誌は、『歴史学研究』等 148 冊を購入。その他、寄贈された雑誌 286 冊。

### 3. 教育・普及

#### (1) 講座・講演

- ① 徳川美術館「古文書入門講座」

6 月 18 日 江戸城御城坊主日記に見る桜田門外の変

6 月 25 日 古文書に見る安政期の地震災害

7 月 2 日 黒船来航と変貌する天下の名園・戸山荘

7 月 9 日 ペリー来航期の落首・世相－徳川慶勝が聞いた庶民の“声” (1)

7 月 16 日 徳川幕府外交印裏事情－印章製作から見える動乱のきざし

7 月 30 日 ペリー来航期の落首・世相－徳川慶勝が聞いた庶民の“声” (2)

- ② 徳川林政史研究所公開講座・豊島区教育委員会共催

10 月 16 日 古文書にみる御山守の仕事－加子母村の鳥糞生産を中心に－

10 月 16 日 江戸時代の社会における家族の看取り－加子母村を事例に－

③ 徳川美術館「江戸学講座」

- 12月3日 元禄時代と幕政の転換  
 1月21日 徳川光友の治世と幕府—二代当主を支えた家老たち—  
 1月28日 木曾山支配の変遷と寛文の林政改革  
 2月4日 尾張家分家の創出と展開

④ その他の講演

・ 深井 雅海

- 4月21日 田沼の政治（第1回） 調布市日本史を学ぶ会  
 5月19日 田沼の政治（第2回） 調布市日本史を学ぶ会  
 5月28日 尾張藩主の江戸城登城 学習院さくらアカデミー  
 6月16日 田沼の政治（第3回） 調布市日本史を学ぶ会  
 7月4日 田沼の政治（第4回） 調布市日本史を学ぶ会  
 9月15日 江戸城の構造と機能（第1回） 調布市日本史を学ぶ会  
 10月20日 江戸城の構造と機能（第2回） 調布市日本史を学ぶ会  
 10月22日 将軍のすまいと儀礼—江戸城 上廣歴史文化フォーラム  
 11月3日 将軍権威と殿中儀礼—年頭御礼の仕組みを中心に— 「徳川賞」受賞者記念講演  
 11月17日 松平定信政権成立の裏事情 調布市日本史を学ぶ会公開講座  
 11月19日 江戸城松の廊下刃傷事件 学習院さくらアカデミー  
 12月15日 江戸城の構造と機能（第3回） 調布市日本史を学ぶ会  
 1月19日 江戸城の構造と機能（第4回） 調布市日本史を学ぶ会  
 2月16日 江戸城の構造と機能（第5回） 調布市日本史を学ぶ会  
 3月16日 江戸城の構造と機能（第6回） 調布市日本史を学ぶ会

・ 藤田 英昭

- 6月25日 江戸無血開城の真実—尾張藩の果たした役割 学習院さくらアカデミー※  
 7月31日 尾張藩主・徳川慶勝と情報ネットワーク 明海大学オープンカレッジ  
 9月17日 徳川家康をめぐる女性～側室・お亀の方の足跡 きらら鎌倉講座  
 10月22日 将軍の一族—御三家 上廣歴史文化フォーラム  
 11月19日 淘宮術が結んだ縁—天璋院篤姫と新家春三 紅葉狩り淘席基調講演※  
 12月10日 再検討・絵島生島事件 学習院さくらアカデミー  
 3月12日 徳川家康をめぐる人間模様～お亀の方を中心に～ 明海大学オープンカレッジ

・ 萱場 真仁

- 6月11日 天保の江戸城西丸再建と尾張藩 学習院さくらアカデミー※  
 9月23日 Local Historical Reconstruction of the Changing Relationship Between Forests and People in Japan ～A case Study of Hirosaki domain in the 19th century～  
 邦題：地域史料にみる日本の森林と人びとの変化—19世紀の弘前藩領を事例に—  
 シンガポール国立大学ワークショップ※  
 10月29日 研究者とワークライフバランス 仕事・アルバイトと研究活動の両立  
 学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻 若手研究者応援講演会  
 11月10日 絵図・映像にみる江戸時代の林業—林政史研究所所蔵史料を中心に—  
 鷲ノ巣愛林農業組合研修会  
 11月21日 近世義民論再考—青森湊打ちこわし頭取“落合仙右衛門”の頭彰を事例に—  
 東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門歴史資料学研究会  
 11月26日 記録からみた元禄・宝永地震と富士山噴火  
 学習院さくらアカデミー

※ オンラインによる講座・講演

(2) 外部機関などとの連携

11月28日 東京大学大学院農学生命科学研究科「森林政策学演習」 受講生・教員

(3) ホームページによる情報発信

ホームページを活用し、「内木家御用状留」などの所蔵史料画像、約20点を公開した。

(4) 出講・受嘱

① 出講

研究員計2名が、合計3の大学の講座等に出講した。

② 受嘱

研究員計1名が、東京都内の区立記念館、合計1件の専門委員の委嘱を受け、必要業務を遂行した。

4. 若手研究者の育成

(1) 非常勤研究員・研究生による研究会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大により、夏季および春季の研究集会は、オンラインで開催した。

(2) 非常勤研究員・研究生による史料整理・目録作成作業

新型コロナウイルスの感染拡大により、夏季および春季の集中史料整理は、在宅作業によるデータ入力の形態で実施した。

(3) 非常勤研究員・研究生の名古屋研修の実施

1月27日～28日 熱田白鳥の歴史館・徳川美術館・名古屋市蓬左文庫にて実施した。

(4) 在宅作業業務

非常勤研究生に、古文書史料の翻刻を依頼した。翻刻者は、月に1回程度の出勤を促し、研究員が解読の指導に当たった（翻刻史料は、「吉通公潜秘録」、「章善院殿ノ事蹟」、「御意之振」、「御山方御用并諸事日記」など）。

5. 閲覧・出陳・レファレンス業務

(1) 史料閲覧

閲覧許可数は、61件、延べ閲覧者数は、123人。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、閲覧時間を短縮および閲覧席数の調整をして対応。

(2) 所蔵史料の出陳

企画展「鷹狩」（徳川美術館・名古屋市蓬左文庫）

会期：令和4年11月12日～12月15日

出陳史料名：御巢鷹達扣ほか、4件

(3) 所蔵史料写真の貸し出しおよび複写サービス

① 所蔵史料写真の貸出および複写

受付総件数、計91件（当研究所直接受付71件、愛知県公文書館受付の紙焼き史料複写申請20件）

② 蓬左文庫受付の二次複写申請

受付総件数、計7件（DVDからの複写6件、紙焼き史料の複写1件）

(4) レファレンス対応

閲覧来所者および電話でのレファレンスに対応した。

6. 補助金関係

(1) 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（特定奨励費）

申請者：（公財）徳川黎明会徳川林政史研究所

研究事業名：近世・近代における持続可能な森林経営に関する調査・研究・普及事業

交付機関：（独）日本学術振興会

交付金額：10,400,000円

(2) 特定奨励費以外の科学研究費助成事業

① 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(A)

研究課題名：高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究

交付機関：京都国立博物館（(独) 日本学術振興会）

交付金額：100,000 円

研究分担者：徳川美術館 学芸部学芸員 安藤 香織

② 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(A)

研究課題名：戦国軍記・合戦図の史科学的研究

交付機関：共立女子大学（(独) 日本学術振興会）

交付金額：200,000 円

研究分担者：徳川美術館 学芸部学芸員 薄田大輔

③ 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目：基盤研究(B)

研究課題名：地域社会史の視座に立った旧藩社会の統合的研究－「旧藩地域社会論」をめざして－

交付機関：中央大学（(独) 日本学術振興会）

交付金額：300,000 円

研究分担者：徳川林政史研究所 研究員 藤田 英昭

(3) その他の競争的資金および民間助成金等

助成金名：(公財) 上廣倫理財団教育・研究・活動助成金

申請者：(公財) 徳川黎明会徳川林政史研究所 所長 深井雅海

事業名：歴史学研究の発展に貢献できる若手研究者の育成

助成機関：(公財) 上廣倫理財団

交付金額：5,000,000 円

7. 事業評価委員会の開催

3月24日、外部委員から成る事業評価委員会により、当研究所が実施した本年度事業について、評価・講評を受けた（新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、紙面評価を継続した）。

8. 資産の取得

図書（購入 53 冊、受贈 397 冊）

9. 施設・設備の保守点検・営繕（当研究所関係）

本部建物 1 階二号蔵コンセント修理および電球交換作業一式、本部建物 3 階ブラインド交換工事一式、空調設備 3 階害虫防除、小荷物専用昇降機保守

10. 活動支援基金による事業

(1) 寄附金受付業務

前年度に引き続き、当研究所の実施事業を対象とした募金活動を行った。本年度の実績として、300,000 円（法人 0 件（0 口）、個人 17 件（30 口））の寄附金を受領した。

(2) 寄附金の使途

史料購入（前記 2.(5)①）3 点、史料補修（前記 2.(5)②）1 件

### Ⅲ.収益事業

#### [ 収益事業 1 ] 不動産賃貸事業（本部・総務部）

##### 不動産賃貸

外国人向け住宅の賃貸（全6棟）

#### [ 収益事業 2 ] ミュージアムショップ・宝善亭等の運営事業（徳川美術館）

##### 1. ミュージアムショップの運営

本年度の売上は、下記各項の企画も功を奏し、昨年度対比 117%となった。

- ・ 刀剣ファンに人気の「とくびぐみ」グッズ新商品「クレールコレクション」を6月に発売した。
- ・ 東京・大阪・福岡にて、大規模小売店舗での期間限定出店（マルイフェス）を9月に実施した。
- ・ 大河ドラマに関連する家康をモチーフとした新商品を積極的に制作・販売した。
- ・ SNS による商品告知を積極的に行い、オンラインショップの活用が促進された。

##### 2. 宝善亭・コーヒーラウンジの利用促進

- ・ 宝善亭において、NHK 大河ドラマ放映に合わせた1年限定の新規ランチ・メニューとして、「家康御膳」が発売・提供され、同様に、本ドラマをきっかけに旅行会社等が企画した昼食付旅行プランなどに利用されたことも相乗効果を生み、集客に繋がった。
- ・ コーヒーラウンジでは、年度を通じて、展覧会に合わせたオリジナルスイーツを提供したほか、これまで提供してきた、刀剣を模したスイーツについて、さらにミニチュア化し、限定セットとして販売したところ、開館前に列ができるほどの人気を博した。
- ・ 昨年度に引き続き、展覧会のテーマに合わせたスイーツの開発や、WEB サイト、SNS 等での広報・宣伝に努めた。

## 事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成していない。